

# 資料を活用する力を育てる授業の試み 「鎌倉幕府と元寇」

金沢市立清泉中学校 三好富美子

## 1 はじめに

\* 中世全体の授業構想

新しく登場してきた武士の政治が、どのように展開していったのかを大きくとらえることが肝心である。これまでに学習した古代との比較をすることで中世という時代をとらえさせたい。また、第3章では資料活用を育てることに主眼をおきたい。各授業では、資料から課題を解決していくことを積み重ね、最後にこの章のまとめとして、中世に起きた大きなできごとを取り上げた時代新聞作りをする。

\* この単元のとらえ方

元寇という事件は、日本の歴史上まれにみる形での戦であり、戦を越えた異文化とのショッキングな出会いでもあった。鎌倉という小さな地域の支配から始まり、東北地方や西日本にまで勢力を広げた幕府が、突如として向き合うことになった元という大国。そのときの幕府（執権）の決断までのいきさつや、戦になったときの当時の武士の気持ちなどに迫れるような授業を工夫したいと考えた。

## 2 授業実践（2時間構成）

\* 提示する資料は、拡大して黒板前に提示する

\* 一人ひとりが挙手をして発表する・班でグループ討議して発表するなどを組み合わせる

### この2時間の課題

- 課題1 武士が「土地（領地）がほしい」と訴えたのはなぜか？
- 課題2 武士の政治がはじまって、不満を持つものはいたか？
- 課題3 図①に「元寇」とあるが、これは何か？これによって幕府はどうなったか？

導入：教科書p.66図①の吹き出しにはいる言葉を考えよう（ヒント：「〇〇がほしい！」と訴えている）

生徒の意見（抜粋）：「お金がほしい」（多数）  
「土地がほしい」「名誉が欲しい」「將軍にして欲しい」など

課題の1～3の提示（三つを示し、一つずつ解決していく）

課題1 武士が「土地（領地）がほしい」と訴えたのはなぜか？

**資料から調べよう**（資料）北条政子の訴え

（『人物でたどる日本の歴史②』（岩崎書店）より）

「みなの方、よくお聞きなさい。ついこの間まで、武士はいやしまれ、さげすまされて、貴族どもにこき使われていたではありませんか。忘れてしまったのですか。私たち東国武士の苦しみをすくい、幕府をひらき、土地や地位を与えてくれたのは亡き頼朝殿です。いまこそ、亡き殿の『御恩』に報いる時です。幕府をつぶしていいのですか。鎌倉を都の貴族にわたしてもよいのですか」この政子の訴えに御家人たちはふるいたちました。「御恩はわすれません。命がけで幕府のためにつくします」

【発問1】北条政子とは誰か。教科書p.67図③から調べよう。

【発問2】資料から將軍と御家人の関係を考えてみよう。

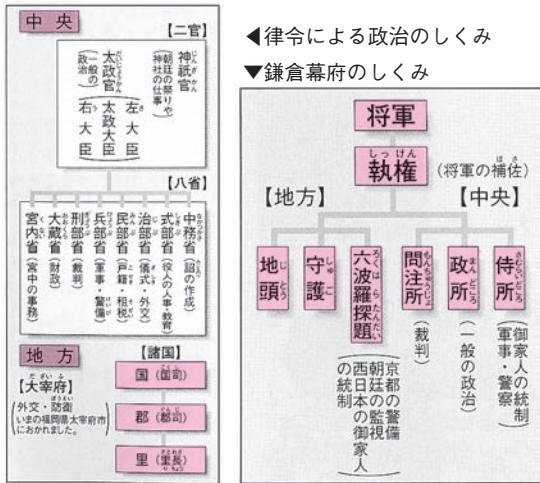
\* 土地を仲立ちとした関係を押さえる

【発問3】資料にある「幕府」のしくみはどうなっているだろう。教科書から調べよう。

【発問4】鎌倉幕府にしくみを、奈良時代や平安時代のしくみと比べてみよう。（教科書p.44とp.66の比較）

生徒の意見（抜粋）：「鎌倉幕府の方が簡単なくみだ」「鎌倉幕府の地方のしくみに上下がない」

【発問5】課題1を解決しよう。



帝国書院『中学生の歴史（最新版）』P44,66

◀律令による政治のしくみ  
▼鎌倉幕府のしくみ

課題2 武士の政治がはじまって、不満をもつものはいたか？

資料から調べよう (資料) 北条政子の訴え

(同上)

- 【発問1】北条政子の訴えの資料から、鎌倉幕府に対する不満をもっていた人がいたことがわかります。どんな身分だろう？
- 【発問2】教科書p.67図⑤からも、武士の政治に不満をもった人がわかります。何という人だったか？
- 【発問3】資料「北条政子の訴え」と教科書p.67図⑤の後鳥羽上皇のことばを両方聞いてあなたが武士ならどちらの味方をしますか？その理由は何ですか？

生徒の意見 (抜粋)：(政子に味方する理由)

「政子の言葉が強そうだから」「味方をすれば土地をたくさんもらえるが、上皇の味方をしても土地をもらえるかどうかわからないから」

(上皇に味方する理由)

「将軍に仕えるなら納得するけれど、執権では将軍の命令に逆らえないから」「上皇なら誰の命令も聞かなくてもいいから」「上皇に認められればたくさんの褒美がもらえる」

【発問4】教p.67図④から、上皇や貴族が起こした反乱(承久の乱)の前後で幕府の勢力はどうなったといえるか。

【発問5】承久の乱の後、幕府は何をしたのか。

【発問6】課題2を解決しよう。

課題3 図①に「元寇」とあるが、これは何か？これによって幕府はどうなったか？

(教室にアジアの掛け地図を用意する)

資料から調べよう (資料) 教科書p.68①②図

- 【発問1】モンゴル軍が築いた大きな国はどれぐらいの範囲だっただろう。
- 【発問2】今の何という国が含まれるだろう。(掛地図または地図帳を使って現在の国名を調べる)
- 【発問3】そんなに広い範囲にどうやって出かけて行けたのだろう。
- 【発問4】「元」とは何だろう。

資料から調べよう (資料) 教科書p.69

「元からの服属を求める手紙」

- 【発問5】フビライは日本に何を求めてきたのか。
  - 【発問6】「兵を用いるような事態」という表現に対して日本人々はどんなことを考えただろうか。自分が当時の執権だったらどうしただろうか。
- 生徒の意見 (抜粋)：「当時の日本の人は、世界地図を知らないから、元がそんなにも大きな国だと知らなかったかもしれない」「貴族なら弱腰に考えたと思うが、武士なら元と戦おうとした」「戦う前から負けると決めたらそれこそ負けてしまう」「執権だったら、中国にない珍しいものを送って対等な貿易をしようと言う」

資料から調べよう (資料) モンゴル軍と戦うアジアの国々～朝鮮半島(高麗)の場合～  
(『まんが 朝鮮の歴史6』(ポプラ社)より)

1231年	モンゴル軍第1次侵入
1232年	モンゴル軍第2次侵入
1235年	モンゴル軍第3次侵入
1247年	モンゴル軍第4次侵入
1253年	モンゴル軍第5次侵入
1258年	高麗、モンゴル服属

【発問7】モンゴル軍はどんな戦い方をしてきたといえるか？

**資料から調べよう** (資料) 教科書p.69③図

「元軍と戦う武士」

【発問8】 元の兵士と日本の武士はどういう違いがあるだろう。

【発問9】 当時の日本の武士は元の軍を見てどう思っただろうか。

生徒の意見 (抜粋) : 「身軽ですばしっこい」  
「馬をねらうとは卑怯だ」「集団で襲ってくるので手強い」「見たこともない武器が突然出でてきたらびっくりする」

**資料から調べよう** (資料) 教科書p.59⑧⑨⑩図

【発問10】 元の襲来が再びあると考えた日本の武士は、どんな対策を取っただろうか。

【発問11】 元寇の結果はどうだったのか。  
(教科書p.69本文より)

**資料から調べよう** (資料) 右3コママンガ

【発問12】 御家人にはなぜほうびが与えられなかったか。

【発問13】 幕府に対して、御家人はどんな気持ちをもつようになっただろうか。

【発問14】 課題3を解決しよう。

単元のまとめ

再び教科書p.66の①図をもとに、2人(竹崎季長と安達泰盛)のセリフを考えて発表しよう。

(今までの学習した内容をふまえてセリフを考えるよう指示する)

生徒の意見 (抜粋) :

竹: 命がけで元の軍隊と戦ってきました。ぜひほうびに土地を下さい。将軍に対する奉公をしたのです。将軍は御家人に土地を与えるのはあたりまえではありませんか。

安: そうは言っても、元から新たに奪った土地はない。ほうびはやれない。

竹: 見たこともない火の玉の武器と戦ってきたのですぞ。

安: 執権と相談してこよう。

竹: もし土地がもらえなかったら、もう二度とだれも幕府のために働きませんよ!

**3 成果と課題**

承久の乱や元寇といった敵味方に分かれての争いを扱ったため、生徒にはどちらの立場を取るかと言う二者選択の場面が多くあった。どちらの立場でも「言い分」があることは生徒たちは理解したようである。最後の単元のまとめは、もう1時間時間をかけられるなら、ロールプレイング形式にして発表してもよいと思う。この単元は、中世の章の始めの部分であるので、教師から資料の提示という形を取ったが、今後は、生徒が適切な資料を収集する力をつける場面の設定をしていくことが必要であろう。